

総合科学教育部

I	教育の水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に地域政策学、地域計画学特論、環境科学等を専門とする教員を新規に採用し、文理融合型の総合的・学際的な広い視野を持った人材の養成に努めている。
- 平成25年度に外部評価委員会を設置して大学院の教育プログラムについて検証を行い、外部評価委員の意見を踏まえ修了要件を見直し、平成26年度に履修規則の改正を行っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 博士前期課程の地域科学専攻では、「プロジェクト研究I」を必修科目としている。この科目では、地域科学に求められる野外調査・アンケート調査やその解析法、基礎科学的な分析手法を用いた課題解決法、地域との協働ワーク等を通じて地域課題解決につながる文理融合的・学際的な視点を育成するため、専門分野の異なる複数の教員が共同して授業を担当している。
- 社会人受入のために昼夜開講制を導入しており、夜間開講授業数は全開講数の約50%となっている。また、社会人を対象に長期にわたる教育課程の履修を認めており、平成21年度から平成27年度の間に24名が制度を利用している。
- 大学院生の教育研究活動支援として、学会に参加する大学院生のための旅費支援を実施しており、年度当たりの支給件数は、平成17年度から平成21年度までの16.2件から第2期中期目標期間の79.2件となっている。

以上の状況等及び総合科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間の学生による学会・研究会発表件数は、博士前期・博士後期課程合わせて299件（年度平均49.8件）、うち国際学会発表は22件となっている。学術雑誌等への論文掲載数（共著を含む）は107件（年度平均17.8件）、うち国際雑誌等は6件、日本学術会議協力団体加盟学会誌は5件となっている。
- 第2期中期目標期間における学会等での受賞数は、日本甲殻類学会賞（論文賞）、日本酸化ストレス学会優秀演題賞、日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部長賞等10件となっている。
- 日本学術振興会特別研究員（DC2、DC1）に博士後期課程学生4名が採用されている。また、臨床心理士資格試験の合格率は、第2期中期目標期間の平均で70.6%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の博士前期課程修了生243名のうち、進学者は16名、就職者は169名、その他は58名となっている。就職先は、基盤科学（理系）、医療福祉関係が多く、また、公務員のほか、企業の研究職や検査職、教員（数学・理科）、学芸員職といった専門的な職業等、研究科で培った技能を活かせる職業に就いている。その他58名の大半は留学生で、多くは帰国している。
- 第2期中期目標期間の博士後期課程の修了生（学位取得者）8名のうち、3名は大学や県の研究機関に勤める研究者（社会人入学）であり、残り5名のうち4名は大学の教員として就職している。

以上の状況等及び総合科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育目的に適う教育実施体制の維持・向上のため、新規教員の採用や複数教員指導体制等のカリキュラムの工夫により、教育課程の充実に取り組んでいる。
- 博士後期課程では、夜間開講等を行い、社会人を積極的に受け入れ、学位取得による社会人のキャリアアップに取り組んでいる。
- 大学院生生活実態調査結果では、大学院に対する満足度についての肯定的な回答は、平成20年度の84%から平成26年度の95%となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の博士後期課程の修了生（学位取得者）8名のほぼ全員が大学教員、研究職に就いている。
- 第2期中期目標期間の学生による学会・研究会発表件数は、博士前期・博士後期課程合わせて299件（年度平均49.8件）、うち国際学会発表は22件となっている。学術雑誌等への論文掲載数（共著を含む）は107件（年度平均17.8件）、うち国際雑誌等は6件、日本学術会議協力団体加盟学会誌は5件となっている。
- 第2期中期目標期間の臨床心理士資格試験の合格率は、平均70.6%となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。